

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0874000227		
法人名	社会福祉法人 竹育会		
事業所名	グループホーム むくもり		
所在地	茨城県つくばみらい市西丸山634-2 (電話) 0297-52-0285		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成21年2月27日

## 【情報提供票より】 (平成20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 16人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	200円	昼食 500円
	夕食	500円	おやつ 47円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成20年10月30日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	3	要介護2	7		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 85.5歳	最低	69歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本医院. 総合守谷第1病院. きぬ医師会病院. ひしぬま歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者の安全と地域に根ざしたホームづくり」の実現に向け、運営母体の他の施設と連携・協力しながらそれぞれの役割を活かした運営をしている。管理者や職員は利用者や家族から希望や意向を聴取し、利用者の生き生きとした行動や言動を引き出す言葉かけを行うなど利用者本位の生活ができるよう支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>介護計画の作成と見直しは改善している。利用者の終末期について職員に周知を図る取り組みまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者は外部評価結果を職員に周知するとともに課題を話し合い改善に取り組んでいるが、自己評価は一部の職員と管理者で作っているため全職員で取り組みサービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>不定期で運営推進会議を開催しホームの運営に活かしているが、会議は2ヶ月ごとに開催するとともにその結果を職員や家族等に周知し共有することを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>苦情ポストを設置しているが投稿がないため「何でもポスト」と名称を変え、無記名で意見を出してもらい、それをサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域の催事に積極的に参加している。近隣の養護学校生などと交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは地域の要請により設立された経緯もあり、利用者の安全と地域に根ざした理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をミーティング等で話し合うとともに職員で共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催事に積極的に参加している。近隣の養護学校生などと交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価結果を職員に周知するとともに課題を話し合い改善に取り組んでいるが、自己評価は管理者と一部の職員で行っており、全職員で取り組むまでには至っていない。	○	自己評価は全職員で取り組みサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	不定期であるが運営推進会議を開催しホームの運営に活かしている。 議事録は作成しているがその結果を職員や家族等と共有するまでには至っていない。	○	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催するとともに、その結果を職員や家族等に周知し共有することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほか運営母体が地域包括支援センターを受託しているため、地域福祉のニーズの把握に努めているが十分とはいえない。	○	地域包括支援センターや市と連携を深めることが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を金銭出納帳をそえて報告している。 訪問できない家族には郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ポストを設置しているが投稿がないため「何でもポスト」と名称を変え、無記名で意見を出してもらい、それをサービスの質の向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員が馴染みの関係が保てるよう説明し、理解を得てから異動をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にシスター制を導入しOJTトレーニングをしている。 また、研修の記録等を作成しているがその内容を全職員で共有するまでには至っていない。	○	職員のスキルアップのため段階に応じた内部や外部の研修計画を作成・実施するとともに、朝礼や会議等で参加者が内容等を報告し全職員で共有することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が中心にグループホーム連絡協議会を設立し情報交換をしている。 また、茨城県老人福祉施設協議会に加入し交流しているが職員の交流や研修の機会が少ない。	○	職員間の交流や研修会のネットワークづくりを行い同業者間のより良い交流を期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたり利用者や家族に事前にホームを訪問してもらったり職員が自宅を訪問するなど利用に関する面接や相談をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生き活きとした行動や言動を引き出す言葉かけをするとともに、できないところをケアすることを基本に共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者を家族として捉え、生活歴や会話の中から思いや意向を把握して支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを行なう時間が余りないため介護支援専門員が担当職員や他の職員から課題を聞き取り、対応の方法などを検討してから介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1度定期的に見直すほか心身の状況に即しその都度見直している。短期目標を少しずつ変えたり具体的にするなど工夫して作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域包括支援センターと連携を図るとともに認知症に関する相談を随時受け付けている。また、通院支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそって診療が受けられるよう体制を整えている。 また、毎週1回医師の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について家族やかかりつけ医、職員で話し合い方針を共有しようとしているが指針の作成や家族等から確認印をもらうまでには至っていない。	○	看取りに関する指針を定めるとともに契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ることが望まれる。 また、終末期ケアについての話し合いの結果を意思確認書に記名捺印をもらうとともに記録することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族等から個人情報の使用に関する同意書に同意を得るとともに日々の生活のなかでプライバシーを損ねない言葉かけをしているが十分とはいえない。	○	利用者の自尊心を傷つけないようトイレのドアは開かれたままにせず利用者に応じたトイレ支援をすることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話や何気ないしぐさ、突発的な行動・言動などから利用者が何を望んでいるのかを察し支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせてスプーンを使ったり小さな食器を使用するなど食べやすくなるよう工夫している。 利用者は盛り付けや配膳、下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが利用者が2つの浴室を選んで入浴できるよう希望にそって支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握し、調理の手伝いや洗濯物を干したり畳んだりするなど持っている力を活かした役割が担えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩を日常的に行い、買い物など利用者の希望にそって外出ができるよう支援している。 またドライブなどの参加を促し外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営母体内で身体拘束委員会を設け身体拘束のない支援に取り組んでいる。 玄関は施錠することなく利用者が自由に入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成するとともに週1回の火災訓練を行い、地域との連携にも力を入れている。	○	火災訓練を行っているが地震や水害に対する食糧や水の備蓄が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営母体から栄養バランスやカロリー計算された献立と材料が届き、ホームで調理を行い利用者に提供している。 また、職員は水分摂取量を把握し記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた調度品を譲り受け、共用空間に飾りつけたりテーブルに季節の花を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や生活用品、装飾品が持ち込まれ親しみ易い雰囲気づくりに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。